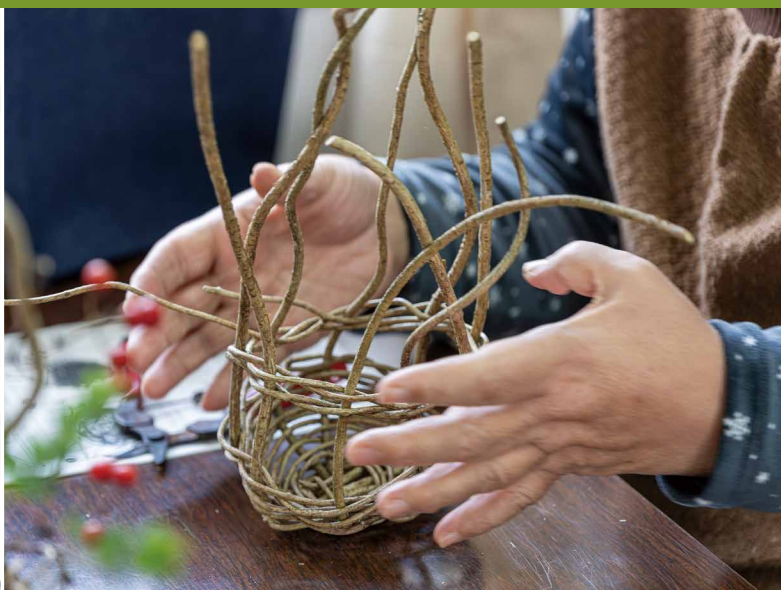
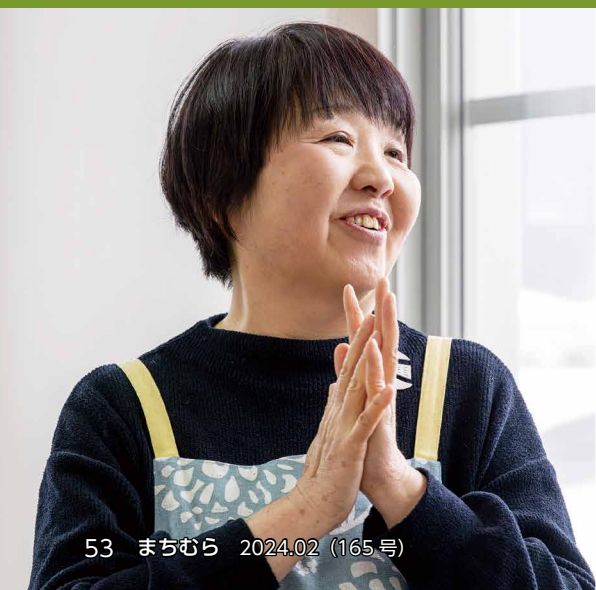




## ゆるりと過ごすみんなの居場所

愛媛県西予市 多田エコグループたんぽぽ生活学校





松山駅から宇和島行の特急列車に乗り、海山超えて南下しトンネルを抜けると車窓は雪景色に一変する。温暖な気候の南予地方だが、冬季には大陸から入る雪雲が流れ込み大雪を降らせることがあるそうだ。卯之町駅で列車を降り、北へ7キロほどの中山間地にある西予市宇和町多田地区を訪れる。肱川の源流域にある豊かな自然に囲まれた農村地域で、街道筋の宿場や物資の集積場として栄えた歴史もある。

多田エコグループたんぼぼ生活学校(代表・菊地由嘉さん)(以下、たんぼぼ)は、多田地区の自然を守るエコ活動を27年に渡り続けており、2019年からは毎月1回、多田地域づくり活動センターを会場に、世代間交流の居場所「たんぼぼカフェ ゆるりら」(以下、たんぼぼカフェ)を開いている。

「おいしい手作りお菓子と飲み物でゆっくりしませんか?遊びに来てね」ゆっくりリラックスする空間を作り、子どもから大人までおしゃべりしたり、宿題をしたり、遊んだりする、そんなコンセプトの世代間交流の場として開催する。

朝9時、たんぼぼ生活学校のメンバー4人は会場の調理室でリングのカップケーキ作りに入る。午後のたんぼぼカフェに出す手作りのお菓子だ。オーブンで焼きあげるとリングの甘酸っぱい香りが漂う。80個を焼きあげて開店を待つ。

たんぼぼカフェは13時から17時までのオープン。たんぼぼのメンバーはコーヒーとカップケーキでおもてなし。午後早い時間帯は高齢者を中心に13人が来場した。今日の企画は「カズラで編む花器づくり」。講師はメンバーの菊地みどりさんが務める。カズラ作りは初めての人が多く手編みに夢中な様子だ。おしゃべりしながら手作業を進め楽しい時間を過ごす。

15時を過ぎると、隣接する多田小学校から学校帰りの小学生が次々とやってくる。たんぼぼのメンバーと挨拶を交わすとカップケーキに目を輝かせる。「もっと食べてもいいの?」「どんどん食べてね」。友達同士でおしゃべりしたり、宿題を



やったり過ぎし方は自由。子ども向けの企画は「防災お菓子ポシエツトづくり」。肩ひもに飴を入れたり賞味期限を書き入れながら作っていく。これはメンバーの秋月さんがNHKラジオで紹介されたアイデアから企画したもの。災害時の非常食として、お菓子はこどもの笑顔のお守りになる。「子ども自身が少しでも防災を考えるきっかけになれば」と秋月さんは願う。

たんばばカフェで過ごす時間について小学生は「友達に誘われて参加した。ポシエツトを自分で作ったことが楽しかった」「りんごを沢山使って、どこのカップケーキよりも最高にうまかった!」「さっぱり系のお菓子が好きなので、防災ポシエツトにポテトチップスを入れた。友達と一緒に遊べるのが楽しい」と思い思いの時間を楽しんだ様子だ。

たんばばカフェのきっかけについて、代表の菊地由嘉さんは「地域の中で定期的に集まれる場がなかったので居場所を作りたいかった」と話す。子どもたちにとっても、学校でも家でもない居場所となる。コロナで中断した時期が続いたが、子どもたちから「たんばばカフェはまだですか」と声上がるようになり2023年7月から再開した。

たんばばカフェの1カ月前から、飾りつけ、遊び、手作りお菓子など、どんな企画にしようか毎日のように考えているそうだ。今後はフードドライブのような物々交換のコーナーも考えたり、みんなが楽しめるたんばばカフェにしていきたい、と菊地さんは新たなアイデアも検討中だ。

多田エコグループたんばば生活学校は、平成9年から活動をはじめ、主婦の目線でできるエコ活動をしようと、ボカシづくり、廃油石けん作り、川の水生生物調査と水質調査、自然観察会、環境教育サポートなどの活動を続けてきた。また、校区内の多田小学校の総合学習にも組み込まれ、年間を通じ



て子どもたちと一緒に活動している。

長年の活動で心掛けているのは「ゆるく、無理なことはしない。誰が休んでも、その日来た人でできるように、参加も休みも気軽にできる。会員が負担に感じる当番制などはしていない」といったことを挙げる。新しい企画も「今月はこれを行います！」と先に伝えて、できる人が参加するやり方をとっているそうだ。

また、同会は中山間地にありながら多くの会員が参加する。その要因として菊地さんは、毎月2回続けるポカシづくりを挙げる。「多田地区は畑で野菜を作る人が多く、ポカシ肥を使えば野菜の味が良くなることから、活動に関心を持ってもらえる。ポカシ作りの手作業を、大勢で協働する楽しさや、地域の人に配布して喜ばれるとやりがいもある。こうした良さが多くの人に伝わっているかも」と話す。

同会は学校運営協議会の会員になっているなど、学校と密接に連携して活動しており、5年生の総合学習における環境学習に同会の活動が組み込まれている。担任の先生と相談し、たんぼぼカフェに来てもらったり、川の生物調査を行うなど、同会の活動が組み込まれた校外学習が引き継がれている。

たんぼぼカフェに子どもたちと来場した多田小学校長の山下先生は、一緒にコーヒーを飲みながら、たんぼぼとの連携について「学校の中の勉強だけではなく、地域との関わりや体験活動は大切なこと。子どもたちの地域への愛着も生まれる。多田地区は特に地域と小学校の関係が近いのでは」と話す。

菊地さんは「コロナ禍で長い間休んでいたけど、人と出会って話をすることはとても大切なこと。子どもたちにとっても、家庭や学校や塾など以外に居場所があることや地域の大人の関わりは、とても大切なこと」といま改めて実感している。たんぼぼカフェと同会の活動は、これからもゆつくりと続き、地域の人の笑顔の拠点になっていくことと思う。

